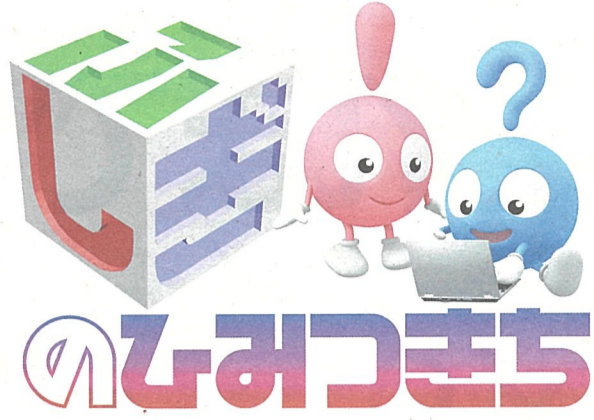


今回のテーマ

# セミの抜け殻が気になって



No.063

ふとした観察から湧いてきた疑問。夏休みの自由研究で誰か解決してくれないかな。

私は公園へ行くたびに、木の幹や葉っぱの裏側を観察します。最近の自当ではセミの抜け殻。セミはサナギにならず、王から出てきた幼虫が夜に羽化して成虫になります。セミの抜け殻を見ていた私の頭に、三つの疑問が湧いてきました。

## ◇かたまってついた葉が

一つ目の疑問は、ニイニゼミの抜け殻が泥だらけなこと。他のセミの抜け殻には泥なんてついていないのになぜ？

ニイニゼミは、6月下旬ごろから鳴き始めます。殻は小さくて丸まっています。羽化の時期が梅雨と重なっているせいでしょうか。地面が湿っていると、はい出てくるときに泥がつきやすいだろうけど、どうもそれだけじゃないような……。

二つ目の疑問は、アブラゼミの抜け殻が「なぜあの葉っぱにかたまってついているんだろう」ということ。その木にはいっぱい葉っぱがあるし、他の木



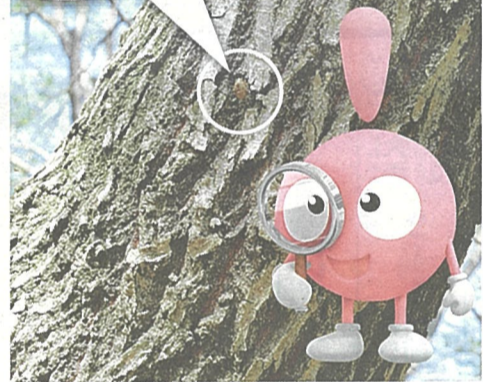
これは去年の夏の写真♪

抜け殻があつまってる…



今年の4月に公園で見つけた抜け殻！

冬の間もずっとしがみついていた？



だってたくさんあるのになぜでしょう。羽化する幼虫が仲間を引き寄せているのでしょうか。だとすると、それは何のため？

## ◇しがみつiki冬を越す？

4月の初め、いつものように公園へ行ったとき、ニイニゼミとアブラゼミの抜け殻を見つけてきました。三つ目の疑問は、ナ

ぜそんな時期に抜け殻があるのかということ。4月はセミが出てくる季節ではありません。これらはきっと去年の夏に成虫になったセミたちの抜け殻。

アブラゼミの抜け殻は、常緑樹の葉っぱの裏にありました。葉っぱは冬でも落ちないので、しっかりしがみついたまま春まで持ちこたえたのでしょう。

木の幹に、アブラゼミだけでなく、ニイニゼミの抜け殻も見つけました。1年近く雨や嵐、雪にも直接さらされていたことが想像できます。セミの抜け殻が水にぬれても日光が当たっても壊れないことを実験して調べてみたくなりました。

あなたも木の幹や葉っぱの裏を観察して、セミの抜け殻について調べてみませんか？

今日の先生



古賀聖治さん

「南極にも行った環境学者です。フシギにも美しさにも必ずわけがある。ジョギング+けんすいが日課」

産業技術総合研究所(産総研)プランディング・広報部。専門は大気中に浮かんでいる微粒子の研究。出身小学校は大阪府高石市立東羽衣小。

## さんそうけんって？

日本で最大級の公的研究機関なんだ。茨城県つくば市など、全国12か所の研究拠点があって、日本の産業や社会に役立つ技術について研究を進めているよ。

キッズむけウェブサイトはこちら → (さんそうけんサイエンスタウン)

